

今回のエコニュースは2013年を振り返ってみようと思います。

◎中国の大気汚染問題が深刻化。『PM2.5』

2013年春先から大きな問題となった『PM2.5』の猛威。中国でPM2.5による高濃度の大気汚染が発生しました。中国の大気汚染は以前から問題になっていましたが、去年は汚染物質が滞留しやすい気象状況や、暖房のための石炭の使用増加なども重なり、北京市を中心に大規模かつ深刻な大気汚染が発生。

健康への影響だけでなく、視界不良による航空便の欠航など交通機関にも支障をきたすほどでした。

日本でも西日本を中心に広範囲にわたって環境基準(健康保護のために維持することが望ましいとされる水準)を超えるPM2.5が観測され、環境省は越境汚染が影響していた可能性があると発表しました。

PM2.5に対する防衛策は、濃度の高い日はできれば外出を控える、外出するなら高性能のマスクをきちんとつける、室内では換気を避けPM2.5除去効果の確かな空気清浄機を使用する、禁煙するということが、効果的みたいです。

PM2.5とは・・・大気中には、揮発性有機化合物や窒素酸化物などの汚染物質が混ざってきた粒子状の物質が浮遊していますが、その中でも粒径2.5マイクロメートル(2.5ミリの千分の1)以下のごく小さな粒子をPM2.5と呼んでいます。PM2.5は化石燃料や草木などを燃やしたときに発生し、車の排気ガスや工場のばい煙などが主な原因となっています。直径が髪の毛の30分の1程度と大変小さいため、吸い込むと肺の奥まで入りやすく、ぜんそくや気管支炎、肺がんなどの呼吸器系の病気のほか、血管に入り込んで動脈硬化や心臓病、脳梗塞など循環器系の病気を引き起こす恐れがあります。

◎記録的猛暑や異常気象による災害が発生。

2013年の夏は猛暑が続いた上に、猛烈な雨も降り、気象庁は「異常気象だった」としています。8月12日には高知県四万十市で41度に達し、国内の最高気温の記録を6年ぶりに塗り替えました。西日本では、昭和21年に統計を取り始めてから、最も暑い夏になったそうです。

雨の被害も多く発生しました。重大な災害が起きる目安の一つとされる1時間100ミリ以上の雨が降ったところは、

7月	山口市	143.0ミリ
8月	鹿角市	108.5ミリ
8月	安来市	100.5ミリ

など、各地で猛烈な雨が降りました。

一方で、東日本や西日本の太平洋側では極端に雨の少ない状態が続き、豊橋でもダムの貯水率がかなり減ってしまい、連日節水を呼び掛ける放送が流れていました。



台風や竜巻、集中豪雨による洪水などが頻繁に起こり、自然災害の脅威を実感した一年だったと思います。気象庁は二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響が表れているとの見解を示しました。日本だけでなく、アジア・ヨーロッパ、アメリカなどの世界各地で極端な気象現象が頻発しています。

気象庁では「2013年の極端な天候は、短期的には気圧配置などが原因だが、長期的には地球温暖化の進行が確実に影響していて、今後ますます増えてくる可能性がある」としています。

今回記載した内容以外にもいろいろなことが昨年はあったと思いますが、私たち曙製作所は「ものづくりの会社」です。不良品の削減、電力使用量や化学物質使用量の削減などを取り組んでいます。3年前の不良実績に対して10%減を目標において、日々活動しています。次回エコニュースでは、活動結果を報告する予定です。

参考資料

<http://health.goo.ne.jp/column/healthy/h002/0191.html>

<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/700/>